

## Sharp の予想の低次元の場合について

高知大理 小駒哲司 (Tetsushi Ogoma)

Gorenstein 環の準同型像となる環は, dualizing complex をもつことはよく知られている。一方, Reiten は canonical module をもつ Cohen Macaulay 環は, Gorenstein 環の準同型像として表わされることを示した。[4] canonical module は, dualizing complex の最低次の non-zero homology module として得られるから, これは Cohen Macaulay ring の場合, 最初の命題の逆が成立することを示している。そこで Sharp は次を予想した。[5, (4.4) conjecture]

予想 (Sharp) 環  $A$  が fundamental dualizing complex をもてば,  $A$  は Gorenstein 環の準同型像として表わされるであろう。

ここでは, 低次元の場合にこの予想が正しいという証明の概略を述べる。詳しいことは, [3] に書くので参照して下さい。

環  $A$  が fundamental dualizing complex  $I$  をもつとする。

すると codimension function といわれる  $d: \text{Spec } A \rightarrow \mathbb{Z}$  が ( $d(\mathfrak{p}) = r \iff A/\mathfrak{p}$  の injective hull  $E(A/\mathfrak{p})$  が  $I^r$  の direct summand) によって定義される。今この  $d$  によって  $A$  の弱 Krull 次元を

$$n = \sup \{ d(\mathfrak{p}) \mid \mathfrak{p} \in \text{Spec } A \} - \inf \{ d(\mathfrak{p}) \mid \mathfrak{p} \in \text{Spec } A \}$$

と定義しよう。もし、 $d$  について混乱のない場合には、単に  $w.K. \dim A = n$  と書くことにする。

注意 もし  $A$  が local ring 又はただ一つの minimal prime をもつ場合には、弱 Krull 次元は、Krull 次元と一致するが、一般には異なる。[3, Example 3.1]

次の命題は、Sharp の予想を一般に unmixed な場合に帰着できることを示している。

定理 1 環  $A$  が fundamental dualizing complex  $I$  をもつとする。このとき、 $A$  は次の性質をもつ環  $C$  の準同型像として表わせる。

- (1)  $C$  は fundamental dualizing complex  $J$  をもつ。
- (2)  $w.K. \dim A = w.K. \dim C$
- (3)  $\mathfrak{p} \in \text{Spec } C$  が  $\text{Ass}_C C$  に属する条件は  $d_C(\mathfrak{p}) = 0$   
但し  $d_C$  は  $J$  で定義される codimension function

この定理の証明の key lemma となるのは次である。

補題 2. 環の全射準同型  $\varphi_1: A_1 \rightarrow A_0$  と  $\varphi_2: A_2 \rightarrow A_0$  が与えられたとする。今変数  $X$  及び  $\varphi_2$  と  $\varphi_3(X)=0$  で定義される準同型  $\varphi_3: A_2[X] \rightarrow A_0$  によって、 $\varphi_1$  と  $\varphi_3$  の fibre product  $B = A_1 \times_{A_0} A_2[X]$  を考える。このとき、

$\text{Ass}_B B = \{P_1^{-1}(\mathfrak{q}) \mid \mathfrak{q} \in \text{Ass}_{A_1} \ker \varphi_1\} \cup \{P_2^{-1}(\mathfrak{q}A_2[X]) \mid \mathfrak{q} \in \text{Ass}_{A_2} A_2\}$  となる。但し、 $P_1: B \rightarrow A_1$  と  $P_2: B \rightarrow A_2[X]$  は射影。

定理 1 の証明の方針は、 $A$  の 0 ideal を  $0 = \mathfrak{a}_1 \cap \mathfrak{a}_2$  (ここで、 $\text{Ass}_A A = \text{Ass}_A A/\mathfrak{a}_1 \cup \text{Ass}_A A/\mathfrak{a}_2$ ,  $\mathfrak{q} \in \text{Ass}_A A/\mathfrak{a}_1 \Leftrightarrow d_A(\mathfrak{q}) = 0$ ) と表わす。すると  $A = A_1 \times_{A_0} A_2$  ( $A_i = A/\mathfrak{a}_i$ ,  $\mathfrak{a}_0 = \mathfrak{a}_1 + \mathfrak{a}_2$ ) となるが、この  $A$  の分解について補題 2 の  $B$  を考えれば、 $A$  は  $B$  の準同型像となるが、 $B$  の associated prime の mixed の状態は  $A$  よりよくなっていることがわかり、帰納法で  $C$  を得るわけである。この詳しい証明及び補題 2 の証明には fibre product の考察が必要なので、[2] 及び [3] をみて下さい。

定理 3 環  $A$  が fundamental dualizing complex を持ち、かつ  $\text{w.K. dim } A \leq 2$  であれば、 $A$  は Gorenstein ring の準同型像となる。

証明) 定理 1 より、 $\mathfrak{q} \in \text{Spec } A$  が  $\text{Ass}_A A$  に属するのは  $d_A(\mathfrak{q}) = 0$  となるもののみとしてよい。この時  $\text{dim } A \leq 1$

であれば、 $A$  は Cohen Macaulay ring となるから、Reiten の結果から  $A$  は Gorenstein ring の準同型像となる。

$\dim A = 2$  の場合、canonical module  $K = H^0(I')$  の endomorphism ring  $A' = \text{Hom}_A(K, K)$  を考えれば、 $A'$  は、finite  $A$ -algebra  $\tau(S_2)$  であり [1], conductor ideal  $\tau = A' : A$  は non-zero divisor を含むことがわかる。よって、regular element  $c$  を  $\tau$  から取り、 $\sigma_2 = A'c$  とおけば  $\sigma_2$  は  $A$  の ideal であり、 $A$ -module として  $(S_2)$  である。

さて、 $\sigma_2$  は  $(S_2)$  で  $A$  は  $(S_1)$  であるから、 $D = A/\sigma_2$  は Krull 次元 1 で  $(S_1)$  であることがわかる。 $(D \neq 0$  として) そこで、 $D[X]$ -module の完全列

$$0 \rightarrow XD[X] \rightarrow D[X] \rightarrow D \rightarrow 0 \quad (**)$$

の右側の準同型でもって、fibre product  $B = A \times_D D[X]$  を考えよう。すると  $B$  は fundamental dualizing complex を持ち、 $\mathfrak{p} \in \text{Spec } B$  について ( $\mathfrak{p} \in \text{Ass}_B B \iff d_B(\mathfrak{p}) = 0$ ) とでき、そのとき  $\dim D[X]_{\mathfrak{p}} = d_B(\mathfrak{p})$  (もし  $D[X]_{\mathfrak{p}} \neq 0$  なら) となることが fibre product の考察からわかる。

他方次の完全列を得る。

$$0 \rightarrow \sigma_2 \otimes XD[X] \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow 0$$

さて、 $B$  の極大 ideal  $\mathfrak{m}$  を取る。もし  $\text{ht } \mathfrak{m} \leq 1$  であら

ば、 $B$  は embedded prime をもたぬから、 $B_m$  は Cohen Macaulay である。

但し  $m=2$  の場合、先の完全列から次の上段の完全列を得。

$$\begin{array}{ccccccc} 0 & \longrightarrow & H^1_m(B_m) & \longrightarrow & H^1_m(D_m) & \xrightarrow{\varphi} & H^2_m(\mathcal{O}_m \oplus X[D[X]_m) \\ & & \downarrow & & \downarrow & & \downarrow \\ & & H^1_m(D[X]_m) & \longrightarrow & H^1_m(D_m) & \longrightarrow & H^2_m(X[D[X]_m) \end{array}$$

完全列 (\*\* ) から下段の完全列を得る。もし、 $D[X]_m \neq 0$  であれば、 $\dim D[X]_m = d_B(m) = 2$  であり、また  $D$  は Cohen Macaulay であるから  $H^1_m(D[X]_m) = 0$  を得る。よって、 $\varphi$  は単射でなければならず、すなわち  $H^1_m(B_m) = 0$  を得る。

故に  $B$  は Cohen Macaulay ring であり、canonical module をもつから、Reiten の結果により Gorenstein ring の準同型像である。射影  $B \rightarrow A$  は全射だから定理を得る。

#### REFERENCES

- [1] Y. Aoyama, Some basic results on canonical modules, J. Math. Kyoto Univ. 23 (1983) 85-94.
- [2] T. Ogoma, Fibre products of Noetherian Rings and their applications, to appear in Math. Proc. Camb. Phil. Soc.
- [3] T. Ogoma, Associated primes of fibre product rings and a conjecture of Sharp in lower dimensional cases, to appear in Mem. Fac. Sci. Kochi Univ. (Math.)
- [4] I. Reiten, The converse to a theorem of Sharp on Gorenstein modules, Proc. Amer. Math. Soc. 32 (1972) 417-420
- [5] R. Y. Sharp, Necessary condition for the existence of dualizing complex in commutative algebra, Seminaire d'Algebra Paul Dubreil, Lect. Notes Math. 740 Springer-Verlag 1979.